

今冬の需給実績について

— ご説明資料 —

平成27年3月31日
九州電力株式会社

目次

- 1 今冬の気象と時間最大電力の推移
 - 2 電力需要実績
 - (1) 平日平均電力
 - (2) 最大3日平均電力の実績
 - 3 電力需給実績
 - (1) 時間最大電力と供給力の推移
 - (2) 今冬における火力発電設備の停止状況
 - (3) 応援融通、市場からの受電状況
 - (4) 時間最大電力発生時の電源バランス
- (参考) 冬季の時間最大電力(発電端)と最高気温の推移

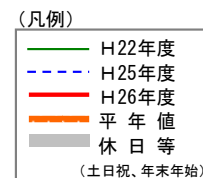
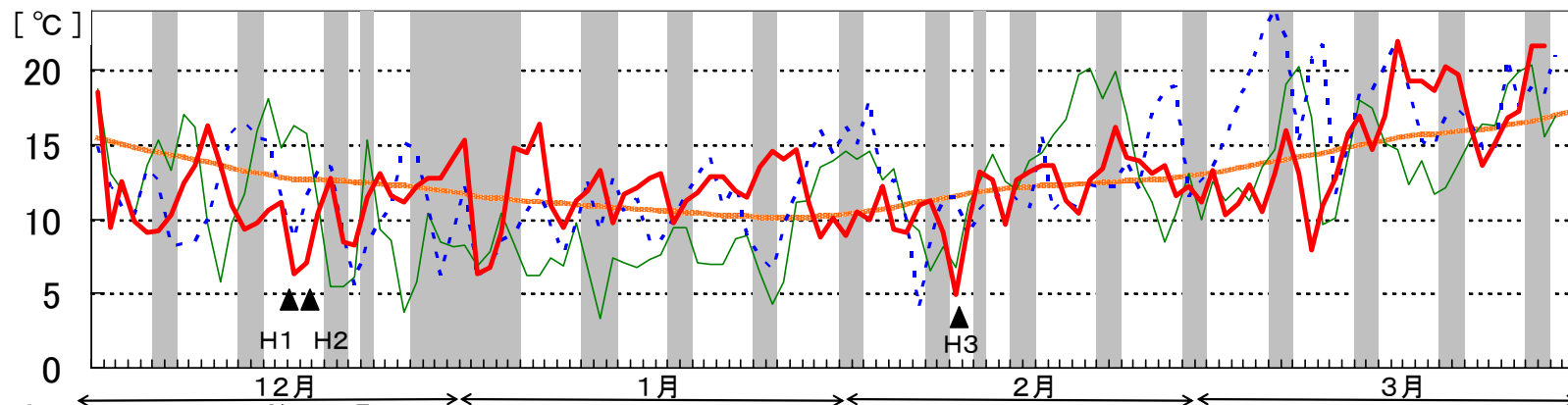
1 今冬の気象と時間最大電力の推移

- 12月は寒波の影響により、最高気温が平年を下回ったが、その後、1月は、平年よりも高い気温で推移。2月上旬及び3月上旬においては、再び寒波の影響で一時的に最高気温が平年を下回った。
- このような中、12月17日(水)に時間最大電力 1,466万kWを記録。

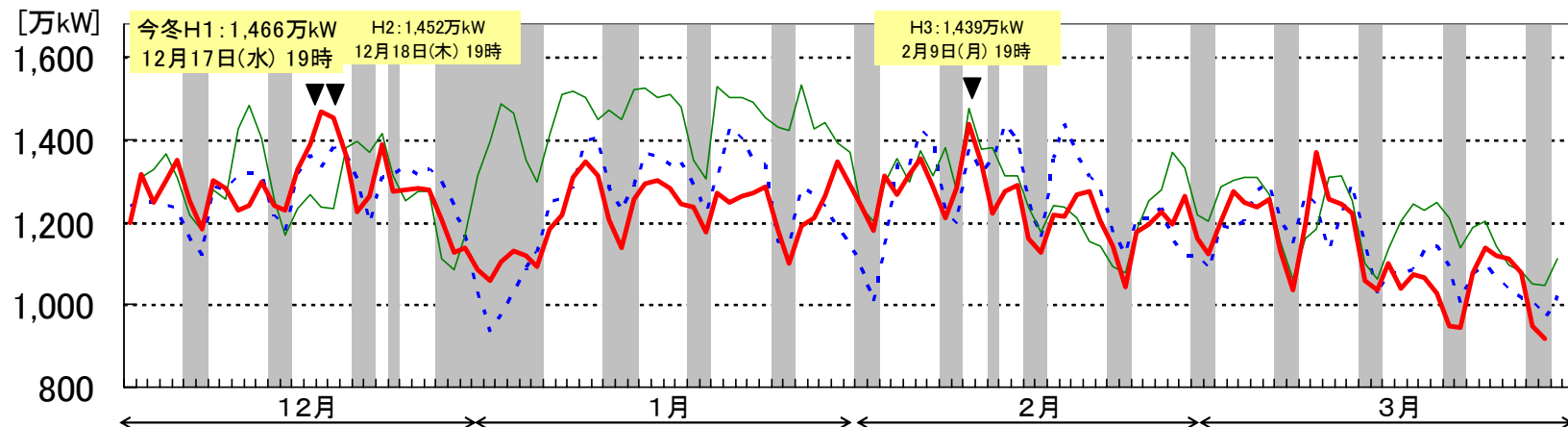
【 最高気温の推移 (九州7県平均) 】

	12月				1月				2月				3月			
	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬	月平均	上旬	中旬	下旬※	
最高気温(旬平均)	12.1	10.2	11.9	11.4	11.1	11.9	12.0	11.7	9.7	12.3	13.5	11.7	11.9	16.7	18.0	
H22年差	▲ 3.2	▲ 3.1	+1.7	▲ 1.4	+3.0	+4.9	+4.6	+4.2	▲ 3.2	+1.6	▲ 4.2	▲ 1.8	+0.7	+1.6	+4.1	
前年差	▲ 2.6	▲ 0.7	+1.7	▲ 0.5	▲ 1.2	+1.4	▲ 1.5	▲ 0.5	▲ 2.3	+2.8	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 0.2	▲ 1.1	
平年差	▲ 2.6	▲ 2.9	▲ 0.3	▲ 1.9	▲ 0.2	+1.2	+1.7	+1.0	▲ 1.4	+0.1	+0.8	▲ 0.3	▲ 1.8	+1.5	+1.7	

※3/29まで



【 時間最大電力の推移 】

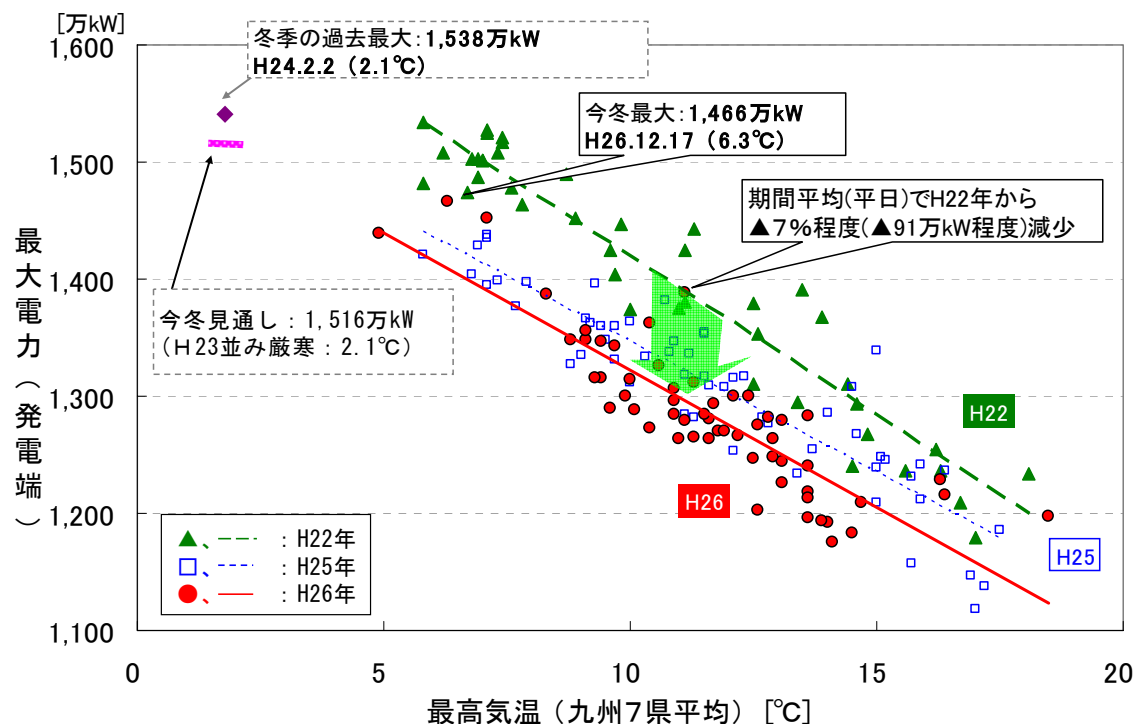


(1) 平日平均電力

- 今冬の最大電力需要は、気温の影響を除くと、平日平均で、H22年度に比べ▲91万kW(▲7%)程度の減少。

ただし、業務用、産業用のお客さまを中心とした離脱などの影響により、▲20万kW程度減少しており、その影響を除いた節電効果は昨冬と同水準で推移。

【最大電力需要と最高気温の相関（12～2月の平日）】



【お客さま別の節電効果等（H22年度比）】

	期間平均(平日)
家庭用 (一般のお客さま)	▲4% (▲21万kW) 程度
業務用 (オフィスビルなど)	▲12% (▲53万kW) 程度
産業用 (工場など)	▲5% (▲17万kW) 程度

注) 対象期間は12月～2月までの平日

（2）最大3日平均電力の実績

- 最大3日平均電力では、H22年度に比べ、▲75万kW程度であり、気温影響(▲2万kW程度)を除いた節電効果等は、▲73万kW程度。
- このうち、節電効果は▲49万kW程度と昨年及び見通しと比べ減少。
減少要因としては、・冬季計画調整期間(1/13~2/13)外に最大電力需要が発生
・初冬段階での一時的な寒気の影響に伴う家庭用(暖房)需要増 などが考えられる。

〔 最大3日平均電力のH22年度実績との比較 〕

	H26年度 (A)	H22年度 (B)	差 (A)-(B)
最大電力(万kW)	1,453	1,528	▲75
最高気温(°C) [前5日平均気温(°C)]	6.1 [9.9]	6.7 [7.3]	▲0.6 [+2.6]

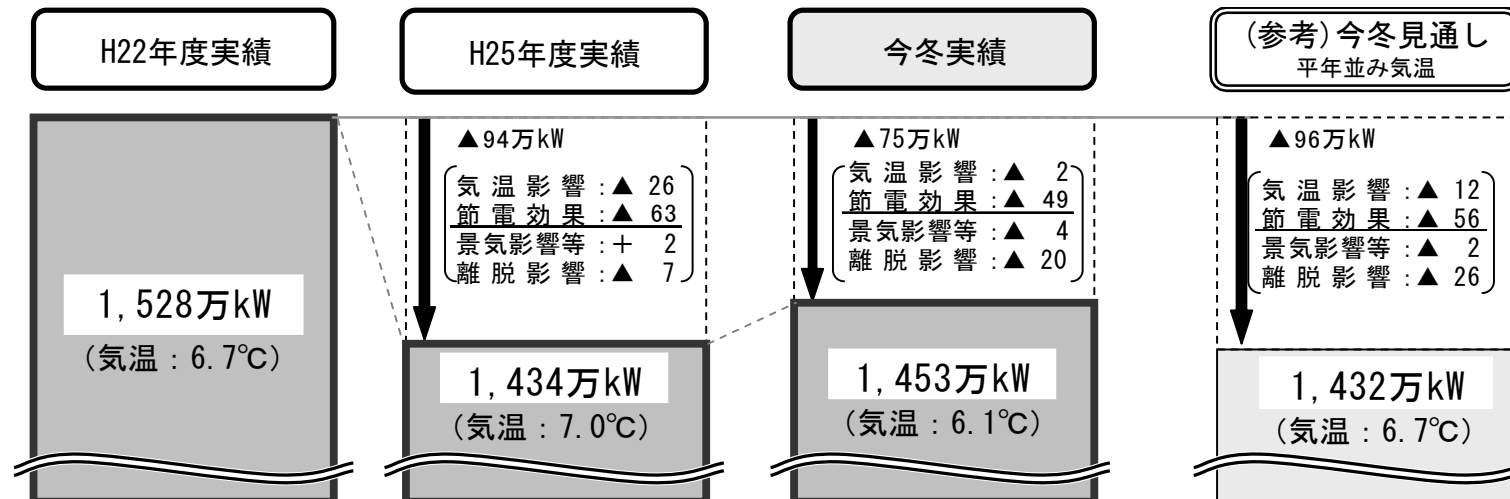
○気温影響※1 ▲2万kW程度

・今冬はH22年度に比べ、最大3日平均電力発生日の最高気温が0.6°C低い、前日までの累積気温が2.6°C高かったため、気温影響は▲2万kW程度。

○節電効果等※2 ▲73万kW程度

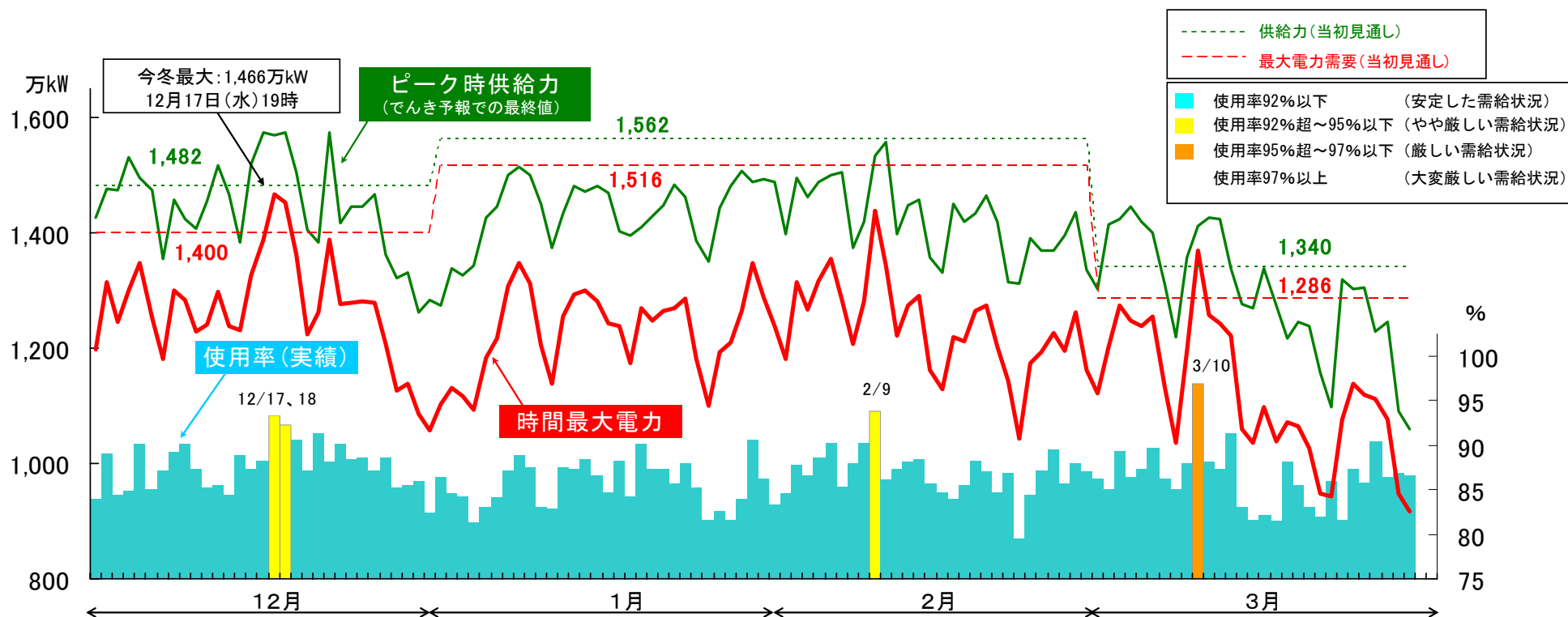
※1 最大電力の気温影響は、前日までの累積効果があるため、当日気温のみではなく、前5日平均気温も考慮

※2 景気・離脱の影響を含む



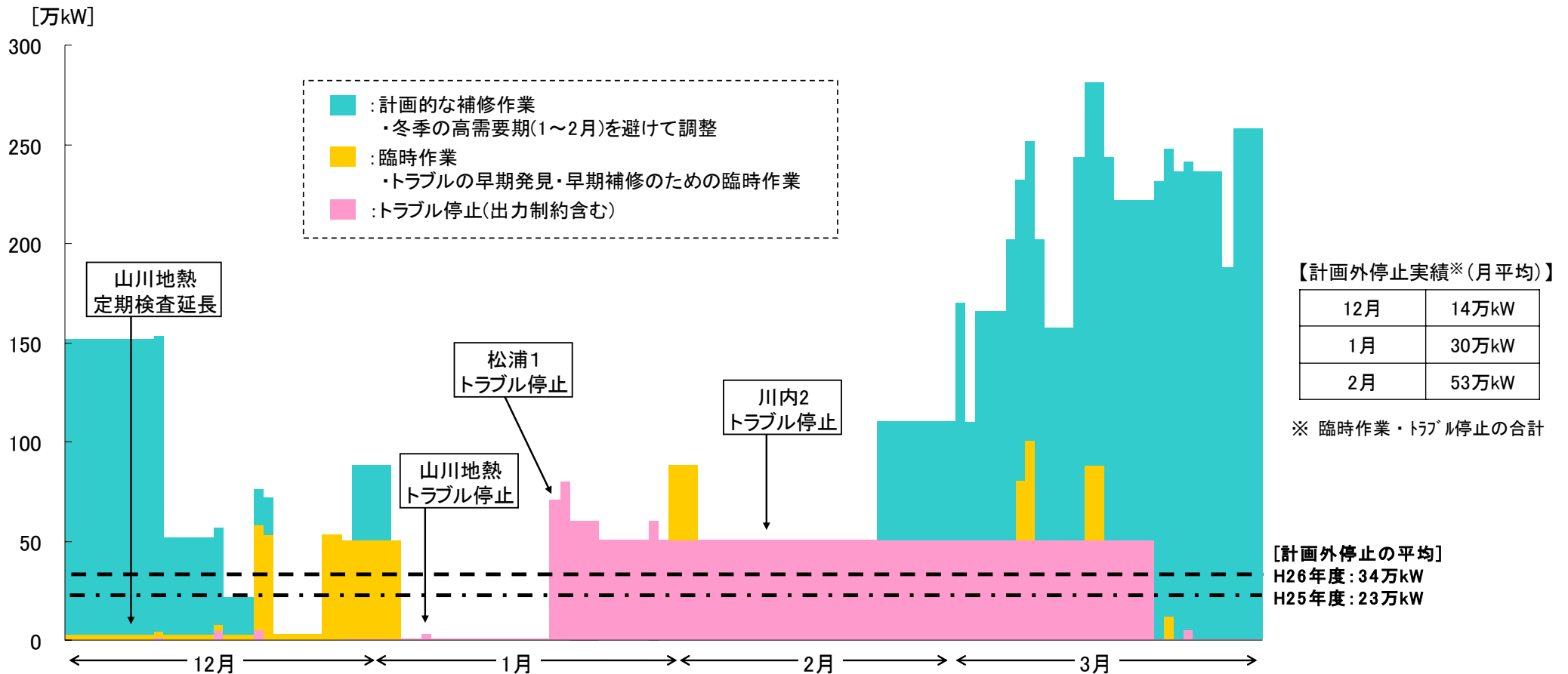
(1) 時間最大電力と供給力の推移

- 今冬において、使用率が92%を超える日は、昨冬と同じ4日となった。
- 12月中旬、2月上旬及び3月上旬において、寒波の影響により電力需要が急増し、使用率が92%を超える需給状況となった。
特に、3月10日は、厳しい寒の戻りによる電力需要の急増と火力発電所等の補修やトラブル停止による供給力の減少が重なり、市場からの電力調達を最大限行ったが、厳しい需給状況（使用率:96.9%）となった。
- 需要面では、一時的な寒波により電力需要が急増する日もあったが、期間を通じてお客さまの節電へのお取り組みに加え、特に1月の最高気温が平年よりも高めに推移したことにより、需要は見通しに比べ低く推移。



（2）今冬における火力発電設備の停止状況

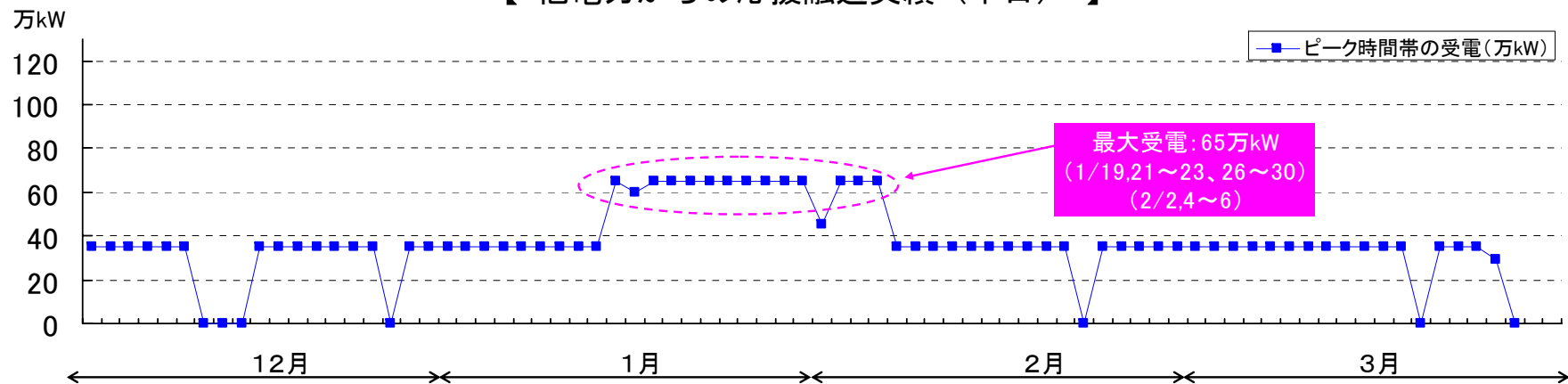
- 冬季の高需要期（1～2月）に備え、火力発電所の補修を12月中旬までに実施。
- 平日の安定運転維持のため、休日等（土日祝、年末年始）に点検・追加補修を実施するなど、電源トラブル原因の早期発見・早期補修を実施。
- 一方で、1月以降、2件[松浦1号（70万kW、1/19～20）、川内2号（50万kW、1/21～3/20）]の主要な火力発電所のトラブルによる停止が発生。



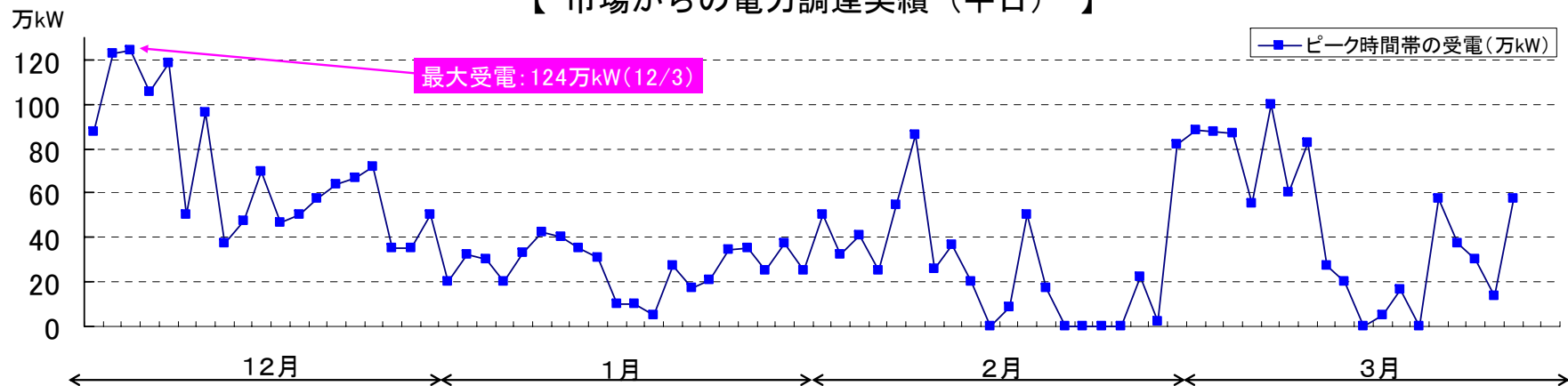
(3) 応援融通、市場からの受電状況

- 他電力からの応援融通については、最大65万kW(1月19日、21~23日、26~30日、2月2日、4~6日)を受電。
- また、市場からは最大124万kW(12月3日)を受電。(火力発電所補修作業に伴う供給力確保)

【 他電力からの応援融通実績 (平日) 】



【 市場からの電力調達実績 (平日) 】

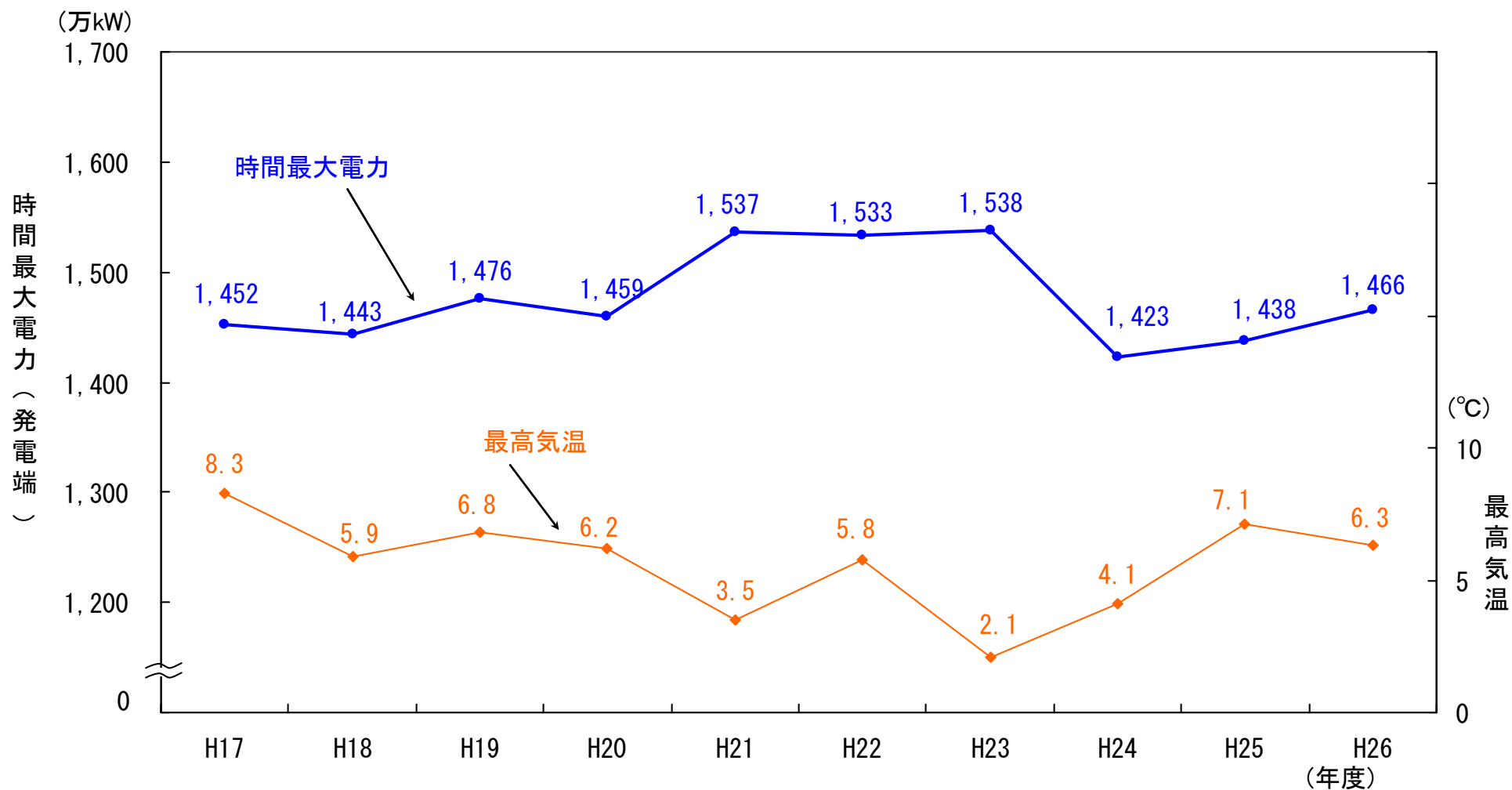


(4) 時間最大電力発生時の電源バランス

(発電端: 万kW、%)

	1月見通し (10/31プレス) [A]	今冬実績 (12/17 19時) [B]	差	
			[B-A]	主な差の要因
電力需要 (当日最高気温)	1,516 (2.1°C)	1,466 (6.3°C)	▲ 50 (+4.2°C)	最高気温が見通しに比べ高め(+4.2°C)に推移したことなどによる減
供給力	1,562	1,588	26	
原子力	0	0	0	
火力	1,201	1,187	▲ 14	火力増出力の減など
水力	69	84	15	降雨量の増に伴う水力供給力の増 〔計画段階では、常に安定的に見込める供給力として、渇水時の供給力を計上していたが、降雨量が増加したため、水力供給力が増加〕
揚水	175	179	4	上池保有量の増による揚水供給力の増
地熱・風力	18	36	18	風力供給力の増〔計画値:1万kW → 実績値:20万kW〕など 〔計画段階では、過去の実績を基に常に安定的に見込める供給力を計上していたが、風況に恵まれたため、風力供給力が増加〕
電力会社間融通	93	35	▲ 58	最大電力発生月の違いによる融通計画の差
中部電力	84	35	▲ 49	
北陸電力	0	0	0	
中国電力	9	0	▲ 9	
新電力からの受電等	6	68	62	市場からの電力調達などによる増 〔計画段階では、確実に見込める契約分の供給力を計上していたが、電力取引市場などから新たに調達したため、供給力が増加〕
予備力 (予備率)	46 (3.0%)	122 (8.3%)	76	

(注) 四捨五入の関係で合計が合わないことがある



[至近10か年実績]